

## 新型コロナウイルス感染に再度の警戒と予防を

本校のコロナ情報を発信しました。下の表は熊本県の感染者数の増減です。

	11/28～	12/ 5～	12/12～
月	391	561(+170)	838(+277)
火	1688	2236(+548)	3919(+1683)
水	1524	1830(+306)	3538(+1708)
木	1209	1853(+644)	3152(+1299)
金	1194	2083(+889)	
土	1240	2234(+994)	
日	880	2856(+1976)	



終業式まであと一週間になりましたが、健康に冬休みを迎える事を願っています。

今週は学校の安心安全  
メールで毎日のように

過去3週間の県発表の数字を比較しました。同じ曜日を前週と比較すると急速に増加している事が分かります。

近距離でのマスクなしの活動や会話、会食等で感染が広がっていますので、なお一層のコロナ対策をお願いします。今後の状況次第で部活動の中止や学級閉鎖等もあり得ます。

## 「心が身体を動かします」

先週の金曜日12月2日の授業参観のPTA研修委員の企画で、心身統一合気道会の佐成隆司様に「心が身体を動かします～生活に使える合気道～」という演題でお話いただきました。

当日は3年生の生徒と保護者に第一体育に集まってもらい、直接お話いただき、1、2年生生徒は各教室に、1、2年保護者は第二体育館にリモート配信しました(聞こえづらい場面もあり、申し訳ございませんでした)。その時の感想を紹介します。

- ・プラスの言葉をたくさん増やしていきたい。
- ・プラスの言葉があふれるクラスにしていきたい。
- ・姿勢を正しくするのは大切という事が分かった。
- ・緊張した時などに、今日教えてもらった合気道を生かしたい。
- ・「曲がらない腕」は家族や友人に試してみたい。
- ・ポジティブにいろんな事をしていこうと思いました。
- ・ネガティブな言葉を発してしまうので、これからはポジティブな言葉を使っていこうと思いました。
- ・緊張した時など臍下の一点を意識して心を落ち着かせたいと思った。
- ・「氣」を集中させる。
- ・言葉には「言霊」があるので自分が頑張れる言葉や、こうなりたいという言葉を書いていきたいと思いました。マイナス発言よりもプラス発言を心掛けていきたいです。
- ・「チクチク言葉」を使わずに相手に優しい言葉を使いたいなあとと思った。
- ・ネガティブな事を言うと本当に力が出なくなる事も見て驚きました。これからはポジティブな言葉を言ったり、思ったりして自分の力を増やしていきたいと思いました。
- ・プラスの言葉とマイナスの言葉は相手をうれしくさせたり、悲しくさせたりするので、プラスの言葉かけるようにしたいと思いました。これから心や身体を鍛えていきたいです。
- ・試合の前とかにプラスの事を言って落ち着かせて頑張りたいと思いました。楽しく講話を聞けました。
- ・心でどう思うかによって、発揮出来る力が大きく変わる。これから受験や高校生活など様々な場面で学んだ事を生かして、心を落ち着かせて良いパフォーマンスが出来る様にしたいと思った。



マイナスの気持ちになる時には、佐成先生の話をお出しするようにしています。

## 人権作文コンテスト作品発表

12月1日(木)の熊日の記事に県大会の最優秀賞等の作品が紹介されていました。

今回は熊本地方務局長賞に選ばれた「母へ」という中学2年生の作文(抜粋要約)を紹介します。

私の母は中国出身です。母は18年前に服飾の技術を学ぶため日本にやってきました。そこで、父と出会って結婚し、日本で生涯を過ごす事を決めました。私と妹を産んで子育てする中で、病院にお世話になる事が多かったそうです。当時、まだ日本語が苦手だった母にも笑顔で対応してくれる受付の方の優しさがとても心に染み渡り、憧れを抱くようになったそうです。そして、一念発起し医療事務の勉強を母は始めました。私が小学校に入学する頃、資格試験を受け、見事合格。日本語で書かれたテキストで勉強したり、試験を受けたりする事は、中国語が母国語の母にとってとても難しい事だったと思います。しかし、母は、「やればできる」という信念を持って、朝早くから夜中まで勉強をして、合格を手に入れたのです。そんな、努力家の母の事を私はとても尊敬しています。

しかし、母にとって、もっと大変な事がその後待ち構えていました。それは、就職に関する外国人差別でした。母は、自宅から通える病院で医療事務の仕事をするため、たくさんの履歴書を書いたそうです。十通以上にも及ぶ履歴書は、すべて「外国人だから」という理由で、手元に戻ってきたそうです。面接もなしで・・・母は「外国人だからコミュニケーションがとれるのかわからなかったからじゃない?」と今では笑顔で話してくれます。しかし、面接の機会すらなく、書類選考で落とされた時の事を「自信がなくなって、暗い小屋の中に閉じ込められた感じ。」と語った事から、とても辛かったと思います。私は、当時小学校1年生で、母が暗い顔をしている理由が分かりませんでした。しかし、中学生になった今、母の悔しさや悲しさが心に響いてきます。どうして、面接の機会を与えてもらえなかったのでしょうか?日本では、差別をしてはいけないと学校で教えているはずなのに、国籍が違うだけで不平等な行為を受けなければいけないのでしょうか?会った事もない、話した事もない人たちが、ただ「中国人」という枠で、母の努力を認めてくれないのはおかしいと思います。きっと母だけでなく、日本で働く多くの外国人の方がこの辛さを味わっているのかと思うと、私は悔しくてしかたがありません。



私がこのように母の就職に関する外国人差別について考えるきっかけになったのは、大好きなアーティストの影響です。ある日のニュースで、そのアーティストがアジアンヘイトの解消について、ホワイトハウスで大統領と会談を行った事を知りました。アジアンヘイトという言葉について、全く知らなかった私は、どんなものか調べました。そこから母は、日本に来てどうだったかなと考えるようになったのです。

今、母は夢だった医療事務の仕事に従事して、忙しいと言いながらも充実した毎日を過ごしています。それは、国籍に関係なく就職試験を受けさせてくれた理解ある病院があったからです。つまり、国籍ではなく、母本人を見てくれる、心ある人が身近にいるという事です。それは、差別をなくせると信じる勇気を私に与えてくれます。母は、今でもどうせ話が通じないんでしょという感じで接せられたり、中国人だという事で悪意を向けられたりする事があるそうです。私は、中国出身の母から産まれましたが、日本で育ってきました。だから、母のような辛い思いをした事はありません。それは、私の周りの人たちが国籍や出身を気にせずに、仲良くしてくれるからだだと思います。私は、クラスの友達が、母の事を「ジュンちゃん」と呼ぶのを聞くとうれしくなります。差別をなくす一番の方法は互いをよく知る事ではないかと思います。互いを知るには、コミュニケーションが大切です。それぞれの国の文化や風習を学ぶ事、相手の気持ちを考える事が、差別をなくす一歩になると思います。大好きなアーティストが、世界のアジアンヘイトをなくそうと努力しているように、私も身近なところで差別をしない事、そして止められる心の強い人になりたいです。それが、故郷から遠く離れた場所で、私を大切に育ててくれている母への恩返しにもなれると信じています。

「差別をなくす一番の方法は互いをよく知る事。互いを知るには、コミュニケーションが大切。それぞれの国の文化や風習を学ぶ事。相手の気持ちを考える事。これが差別をなくす一歩になると思います。」に共感します。「あの人は○○だから・・・。」という決めつけをなくす努力をしたいと思います。